

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱立て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施策群名	3	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる
施策名	3.1	文化・芸術活動の充実と郷土の歴史継承の支援
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 区民のだれもが文化・芸術に親しむことができるよう、文化・芸術活動の充実及び環境整備を図る。 ■ 文化資源の調査・活用に努め、郷土の歴史・文化継承を支援する。
現状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5年度の区政モニターアンケートでは、文化芸術に関心のある区民の割合は89.7%であり、文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合は50.8%であった。 ■ 令和3年度に文化財保護法の一部改正され、各自治体も文化財の滅失・散逸等の防止と、これまで価値付けが明確でなかった未指定を含めた有形・無形の文化財を、まちづくりに生かすことの重要性が示された。 ■ ギャラクシティ、伊興遺跡公園展示館は施設の老朽化が激しい。シアター1010は空調設備など修繕が必要な箇所が出てきている。郷土博物館は令和7年4月に大規模改修後のリニューアルオープンを迎える。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化芸術に関心を持っている区民の割合は高いものの、実際の活動や行動につながっていない。 ■ 令和3年度の文化・読書・スポーツに関するアンケートより、区における子どもの鑑賞体験が令和3年度(57.6%)は平成30年度(89%)と比較し、31.4%と減少していることが判明し、子どもの成長段階に応じた文化体験事業の提供が課題となっている。 ■ 区政モニターアンケート(令和4年度)では、足立区の伝統芸能や文化財への関心は約8割と極めて高いものの、実際に触れたことのある区民は約4割と少ない。 ■ 文化芸術推進計画に基づき、文化財の滅失・散逸の防止策と文化財の保護と利活用について、具体的な計画が必要である。 ■ ギャラクシティの大規模改修は修繕内容の再検討が必要となり、令和9年度に延期となった。伊興遺跡公園は平成5年度の竣工以来30年経過し、改修が必要となっている。
方針		<ul style="list-style-type: none"> ■ 誰もが文化芸術の魅力に「気づき」、楽しいと思える出会いの機会を充実させるため、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、区民が身近で手頃に文化芸術を楽しめる事業を継続展開していく。 ■ 文化遺産調査により新たに発見された有形・無形の文化財や文化資源を次世代に残していくため、保存・継承に務めるとともに、わかりやすくPRしながら積極的な活用を検討していく。 ■ 区に根づく地域の祭事など、魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援することで、地域への愛着や誇りを醸成していく。 ■ 令和7年度中に有形・無形を含めた文化財の保護と利活用に関する行動計画を策定する。 ■ ギャラクシティ、シアター1010、伊興遺跡公園展示館の改修等の着実な実施に向け、施設営繕部と協議しながら準備を進めていく。
担当課名	生・地域文化課(取りまとめ)	
電話番号	03-3880-5985	E-mail chiiki@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創の取り組み	区内には様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、民間の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかに連携し、足立区の文化芸術の活性化を図っていく。なお、主な協働、協創主体としては、庁内は、シティプロモーション課、報道広報課、生涯学習支援課、庁外は文化団体連合会、足立シティオーケストラなどの音楽団体、郷土芸能保存会、郷土博物館協働グループ及び共催事業実行委員会がある。	
SDGsが目指す目標(ターゲット)との関連及び評価	<p>「4 質の高い教育をみんなに」について、令和6年度改定の足立区文化芸術推進計画では、計画の目指す将来の姿において、「年齢や性別、障がいの有無に関わらず、区民のだれもが文化芸術を身近なところで気軽に楽しめる環境が整っている」と設定していることから関連が深いものと思われる。</p> <p>「11 住み続けられるまちづくりを」について、国の文化芸術推進基本法には、「文化芸術は、心豊かな活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持つもの」とされていることから、各事業の推進がまちづくりには外せない関連深いものである。</p> <p>各事業の実施により区民が気軽に文化芸術を楽しめる環境の整備が進んでいることから、SDGsの推進に大きく貢献していると評価する。</p>	
備考		

2 施策指標

※達成率＝左欄：当該年度目標値に対する達成率 右欄：R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果1】文化芸術関連事業への参加や活動を行った区民の割合										
	定義等	3分野に関するアンケート調査（区民向け調査）において文化芸術関連事業への参加や活動を行った区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		20		-		-		30		-	
	実績値		22.9		-		-		-		-	R6
達成率		115%	76%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		-
指標 (2)	指標名	【活動1-1】文化・読書・スポーツ活動協創推進事業の回数（分野間連携事業）										
	定義等	読書・スポーツ分野と連携した協創推進事業の年間の総実施回数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		648		792		1,237		3,360		-	
	実績値		752		1,130		1,016		1,044		-	R6
達成率		116%	22%	143%	34%	82%	30%	31%	31%			-
指標 (3)	指標名	【活動1-2】文化芸術交流会の開催回数										
	定義等	文化芸術交流会の年間開催数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		3		4		4		6		-	
	実績値		0		1		1		3		-	R6
達成率		0%	0%	25%	17%	25%	17%	50%	50%			-
指標 (4)	指標名	【成果2】足立区の文化財や伝統芸能に触れたことがある区民の割合										
	定義等	3分野に関するアンケート調査（区民向け調査）において足立区の文化財や伝統芸能に触れたことがある区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		50		-		-		70		-	
	実績値		37.7		-		-		-		-	R6
達成率		75%	54%	0%	0%	0%	0%	0%	0%			-
指標 (5)	指標名	【活動2-1】文化資源を活用した企画展等の来館者数										
	定義等	郷土博物館における企画展の来館者数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		8,000		8,000		-		-		-	
	実績値		6,528		11,293		-		-		-	R6
達成率		82%	30%	141%	51%	0%	0%	0%	0%			-
指標 (6)	指標名	【活動2-2】郷土芸能を保存・伝承する団体の活動を鑑賞した人数										
	定義等	郷土芸能鑑賞会・郷土芸能大会の鑑賞者数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		600		600		600		600		-	
	実績値		0		0		250		235		-	R6
達成率		0%	0%	0%	0%	42%	42%	39%	39%			-

単位：千円

3 投入コスト	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	464,896	501,910	689,543	975,654	
人件費	203,939	188,976	178,399	202,469	
総事業費	668,835	690,886	867,942	1,178,123	
前年比(金額)	△412,426	22,051	177,056	310,181	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

【指標（1）】

達成状況：3分野アンケート調査は3年に1度の実施予定であったが、中間見直し時期が1年ずれたため、令和7年度実施予定となった。

【指標（2）】

達成状況：3分野計画の最終目標値からはまだ乖離があるが、3分野に親しむ機会を継続して提供することができた。

原因分析：令和6年度は中央本町地域学習センターが休館していたが、ニーズを踏まえた効果的なプログラム実施に務めたことで、総実施回数は、前年比微増となった。

【指標（3）】

達成状況：文化団体連合会は文化祭、研修会、郷土芸能保存会は郷土芸能大会の場を通して交流を行うことができた。

原因分析：足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団の3支援団体の連絡会については、日程等が合わず開催できなかった。

【指標（4）】

達成状況：3分野アンケート調査は3年に1度の実施予定であったが、中間見直し時期が1年ずれたため、令和7年度実施予定となった。

【指標（5）】

達成状況：郷土博物館は令和5年1月から令和7年3月まで大規模改修に伴い休館していたため、目標と実績ともに該当なしである。

【指標（6）】

達成状況：郷土芸能大会は16団体が出演し、区内のお囃子や獅子舞の鑑賞会を実施した。しょうぶまつり、区民まつりにおいてもお囃子演奏や体験を行い、来場者へ郷土芸能の鑑賞の機会を提供した。

原因分析：郷土芸能鑑賞会は、開催場所の郷土博物館が改修中のため開催できなかった。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

【指標（1）】

今後も区内のホールやシアター1010、天空劇場での舞台鑑賞やイベントなどに加え、ストリートピアノや東京藝術大学連携事業のアウトリーチなどにより、身近に文化芸術に触れる機会を創出していく。

【指標（2）】

より多くの区民が文化・読書・スポーツの楽しさに気付き、深め、広げ、心豊かに生きることができるよう、指定管理者と連携して、事業を展開していく。

【指標（3）】

足立区内において様々なジャンルにアーティストや伝統ある文化団体、民間の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。文化祭や発表会を通じて活発な交流を後押ししていく。

【指標（4）】

歴史的な文化財や文化遺産の発見と積極的な活用により、子どもの頃から地域の文化資源に触れる機会を増やすとともに、転入者や来訪者に対しても区の魅力ある文化資源を発信していく。

【指標（5）】

令和7年4月のリニューアルオープン後も引き続き足を運んでもらえるような魅力的な展示や事業を検討していく。

【指標（6）】

郷土芸能鑑賞会は、後継者の演奏機会の提供、郷土博物館来館者に郷土芸能を知ってもらう機会となるため、令和7年度から再開する。区民まつり等での演奏機会も提供し、郷土芸能の保存・継承と後継者が生まれるきっかけづくりを図っていく。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱立て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施策群名	3	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる
施策名	3.2	生涯学習活動の充実と地域における学びの循環
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 区民のだれもが人生100年時代を心豊かに生きるために、生涯学習活動の機会を充実していく。 ■ 地域における学びと活動の循環を生み出すために、区民の自主的な学習活動を支援する。 ■ 区民の読書習慣の定着を図るために、子どもとその周囲の大人に読書の楽しさや大切さを伝える活動を推進していく。
現状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 生涯学習のきっかけづくりとして、各学習センターにおいて多種多様な事業を実施している（令和3年度実績、1,820事業）。 ■ 学習センター登録団体は、約380団体（スポーツ団体除く）あり、自主的な学習活動を継続的に行っている。 ■ 令和3年度に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」（3年毎に実施）の結果、過去1か月間に本を読んだと回答した区民は、16歳以上では52.9%、児童・生徒では71.1%であった。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くの区民がいくつになっても学びの楽しさを感じられるよう、今まで以上に身近な講座やイベント等を充実させ、区民に様々な参加機会を提供していく必要がある。 ■ 学習センター登録団体がさらに学びを深め、広げていくためには、日頃の活動の成果を区民や地域に還元するなど、学習活動のステップアップが必要である。 ■ 令和3年度に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」（3年毎に実施）の結果、保護者の読書習慣が子どもの読書活動に影響していることがわかった。読書習慣の定着のためには、子どもとその周囲の大人に読書の楽しさや大切さを伝えることが必要である。
方針		<ul style="list-style-type: none"> ■ 意欲のある区民がいつでもどこでも学ぶことができるよう、ICTを活用した同時配信やオンデマンド（※）等も含め、生涯学習の機会を充実していく。 ■ 学習センター登録団体が地域還元の意識を持って、講座やイベント等を自ら企画運営し、また、アウトリーチ型の活動を実施できるよう、学習センターと連携して登録団体の学習活動を支援していく。 ■ より多くの区民が読書の楽しさに気づき、深められるように、乳幼児期からの読書習慣の定着に取り組んでいく。 （※）動画等をあらかじめサーバに備え、区民からの要求に応じて、その情報をインターネットを通じて配信する形式のこと。
担当課名	生・生涯学習支援課（取りまとめ）	
電話番号	03-3880-5468	E-mail sg-shien@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 区民の自主的な学習活動において、登録団体が地域とのつながりにより、学びの循環を生み出している。 ■ 生涯学習施設において、指定管理者制度を活用し、民間的な発想や創意工夫により管理運営を行っている。 ■ 指定管理者の公募・選定・評価において、学識委員のほか、区民委員で構成している。 ■ サークルフェア、ふれあい祭りにおいて、利用者等の実行委員会形式で運営している。 ■ 施設の管理運営において、利用者懇談会等で区民の意見交換や要望を取り入れている。 	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット)との 関連及び評価	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもや障がい者等にも配慮し、全ての区民が安心して施設利用ができるよう、計画的な保全計画、施設点検や修繕等の維持管理及び巡回警備等を行っている。 ■ 区民のだれもが人生100年時代を心豊かに生きるために、多種多様な生涯学習活動の機会を充実させ、区民の自主的な学習活動を支援している。 	
備考		

2 施策指標

※達成率＝左欄:当該年度目標値に対する達成率 右欄:R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果1】講座や講演会、サークル活動などに参加した区民の割合										
	定義等	区世論調査で「この1年間に講座や講演会、サークル活動等に参加した」と答えた区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		12		13		14		15		-	
	実績値		4.3		5		8.5		12			R6 15
達成率		36%	29%	38%	33%	61%	57%	80%	80%			-
指標 (2)	指標名	【活動1-1】各学習センター事業の数										
	定義等	各学習センターが行う講座・イベント等の開催件数										
	単位	件	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		2,650		2,650		2,650		2,650		-	
	実績値		1,820		4,029		3,741		3,829			R6 2,650
達成率		69%	69%	152%	152%	141%	141%	144%	144%			-
指標 (3)	指標名	【活動1-2】各学習センター登録団体等が区民や地域に学習機会を提供した数										
	定義等	各学習センターの登録団体等が自ら企画運営を行う講座、イベント、アウトリーチ型活動の開催件数										
	単位	件	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		183		211		239		267		-	
	実績値		61		99		88		111			R6 267
達成率		33%	23%	47%	37%	37%	33%	42%	42%			-
指標 (4)	指標名	【成果2】区政に関する世論調査で、「最近1か月に本を読んだ」と回答した区民の割合										
	定義等	同上										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		59		59		59		59		-	
	実績値		44.2		45.1		42.1		45.8			R6 59
達成率		75%	75%	76%	76%	71%	71%	78%	78%			-
指標 (5)	指標名	【活動2】「あだちはじめてえほん」事業のアンケートで、「子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている」										
	定義等	(指標名続き)と回答した保護者の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		60		65		70		75		-	
	実績値		51.7		52		56.3		50.4			R6 75
達成率		86%	69%	80%	69%	80%	75%	67%	67%			-
指標 (6)	指標名											
	定義等											
	単位		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値											
	実績値											R6
達成率												

単位:千円

3 投入コスト	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	2,988,399	4,123,859	3,196,844	3,370,962	
人件費	424,264	420,855	392,311	472,172	
総事業費	3,412,663	4,544,714	3,589,155	3,843,134	
前年比(金額)	△15,094	1,132,051	△955,559	253,979	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

【指標1】

達成状況：目標値15%に対し実績値12%となり、目標値を達成できなかったものの対前年度比は3.5%増加した。

原因分析：新型コロナウイルスに関する感染症法上の分類変更以降、センターでも多種多様な事業を行い、講座の受講やサークル活動等に対する区民の意欲が高まり、参加率が増加したと考える。

【指標2】

達成状況：目標値2,650件に対し実績値3,829件となり、目標値を達成できた。

原因分析：令和6年度は中央本町センターの休館があったが、前年比で件数が若干増加し、多くの学習機会の提供が行えた。

【指標3】

達成状況：目標値267件に対し実績値111件となり、目標値を達成できなかった。

原因分析：登録団体自ら企画して地域学習センターの会場で区民に提供する事業は95件実施し、前年度の73件から22件増加した。

登録団体が高齢者施設等において実施する事業は16件実施し、前年度の15件から1件増加した。

登録団体数はコロナ禍前の平成30年度では407団体であったが、令和7年4月現在では321団体と、86団体減少している。

登録団体数の減少傾向に伴い、登録団体自ら企画運営する講座、イベント、アウトリーチ型活動数は縮小している。

【指標4】

達成状況：目標値59%に対して45.8%となった。令和5年度から3.7ポイント増加し、当指標を設定した令和3年度以降最も高い数値となったが、目標値を達成することはできなかった。

原因分析：本を読まない理由は「面倒くさいから」「加齢」「多忙」が上位を占めている。

また、「特に理由はない」という回答も多く、他の情報機器から情報を取得する人が増えていることもあり、本離れが進んでいることが考えられる。

なお、本を読む人は全国的に減少傾向にある（文化庁の「令和5年度国語に関する世論調査」では、本を読む人が37.4%で平成30年度調査から15.3ポイント減少している）。

【指標5】

達成状況：目標値75%に対して50.4%となり、目標値を達成することはできなかった。

原因分析：「あだちはじめてえほん」事業において、「子どもの読書と保護者の読書の関連性」についてチラシを用いてPRしているが、他のイベントや事業を含めた一体的なPRが十分でなかったことが考えられる。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

【指標1・2・3】

講座や講演会、サークル活動などに参加した区民の割合が目標値に達するよう、ICTも活用しながら、特に参加の少ない20～40代の働き世代や子ども世代に向けた事業の充実を図り、区民の自主的な学習活動につなげていく。

登録団体への活動支援については、地域での活動が広がるよう、指定管理者と連携しセンターミニコミ紙等での活動紹介のほか、地域との架け橋の役割を引き続き行いながら、登録団体の活性化を図っていく。

なお、登録団体数の減少傾向については、どのような活動が減少しているかなどの原因分析を行い、指定管理者と意見交換を実施しながら、今後の活動支援のあり方等を検討していく。

【指標4・5】

令和6年度に策定した「図書館サービスデザインアクションプラン」に基づき、区立図書館の見直しを行っていく。館内ルールや選書などの見直しのほか、中央図書館の組織体制の見直しや、職員の意識改革のための研修などに取り組んでいく。

また、アクションプランに掲げた「本を読む人も読まない人も訪れる図書館」の実現を目指した方策の先駆けとして、中央図書館のリニューアルを令和7年度から9年度にかけて実施していく。既存の書架、窓口カウンターの撤去や内装、壁の変更など1階の全面リニューアルを行い、一人でもグループでも居心地の良い空間づくりを目指していく。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱立て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施策群名	3	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる
施策名	3.3	生涯スポーツ活動の充実と地域還元
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動・スポーツを身近に感じられる環境を整えることで、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もが日常的に楽しめる運動・スポーツを推進する。 ■ 運動・スポーツを支える人材の育成に取組み、運動・スポーツを通じた共生社会の構築を目指す。
現状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 区では、子どもの体力向上や、高齢者の健康づくり、「するスポーツ」「みるスポーツ」の充実など、運動・スポーツの機会創出に取組んできた。 ■ 令和6年度に行った世論調査では、日常的に(週1回以上)運動・スポーツを行っている区民の割合は全体の45.6%となっており、これは全国の同種の調査結果(55.8%)に比べ、低い数値となっている。 ■ 令和4年度に行った調査では、障がいのある区民の23.6%が現在、運動・スポーツに取り組んでいると回答している。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ■ 障がいの有無にかかわらず一人でも多くの方が取組めるよう、運動・スポーツへの関心や意欲を高め、寄り添った支援を行っていく必要がある。 ■ 運動・スポーツの指導者やボランティアといった人材が不足しており、こうした人材の育成、活躍の場づくりを進めていく必要がある。
方針		<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動・スポーツを気軽に楽しめる機会の提供や場の整備を通して、運動・スポーツを区民により身近に感じてもらう取組みを推進する。 ■ より多くの障がい者が、体験を通して運動・スポーツに取り組めるよう、支援の輪を広げていくとともに、それを支える人材育成に取り組んでいく。
担当課名	生・スポーツ振興課(取りまとめ)	
電話番号	03-3880-5826	E-mail sports@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創の取組み	当課各事業に関わりのある、福祉部、衛生部、道路公園整備室、教育委員会(教育指導部・学校)、生涯学習振興公社、スポーツ協会等と、事業内容の検討をはじめとした協働体制を更に強化していく。また、民間企業主導による事業展開について、協創の視点から今後、拡大を推進していく。	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット) との関連 及び評価	<p>【目標】3 すべての人に健康と福祉を【ターゲット】3.4 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。【関連する理由】日常的に楽しめる運動・スポーツを通じ、誰もが健康な身体を維持できるよう取組み、共生社会の構築を目指していく。</p> <p>【目標】17 パートナリシップで目標を達成しよう【ターゲット】17.17 様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。【関連する理由】運動・スポーツに関する事業の実施について、様々な関係団体や、民間事業者、プレーヤー、サポーターとつながることで、幅広い運動・スポーツの機会を創出していく。</p>	
備考	(令和4年度)頻度に関わらずスポーツをする区民の割合を測るため、指標1を追加 (令和4年度)指標3を「事業実施回数」から、より成果に結び付く「事業参加者数」に変更 (令和5年度)実績値に基づき、指標4の最終目標値を49%⇒73%に上方修正	

2 施策指標

※達成率＝左欄：当該年度目標値に対する達成率 右欄：R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果1】定期的にスポーツをする人の割合										
	定義等	世論調査で「日常的に運動・スポーツを行っている人」の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		62	62	62	62	-					
	実績値		56	57	57	59					R6	62
達成率		90%	90%	92%	92%	92%	92%	95%	95%			-
指標 (2)	指標名	【活動1】週1回以上運動・スポーツをする区民の割合										
	定義等	世論調査で「週1回以上運動・スポーツをする」区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		43	45	47	49	-					
	実績値		44	45	45	46					R6	49
達成率		102%	90%	100%	92%	96%	92%	94%	94%			-
指標 (3)	指標名	【成果2】体育協会、スポーツ施設、総合型地域クラブの事業参加者数										
	定義等	各種教室、大会、イベントの参加者や選手派遣者数、総合型地域クラブの事業参加者数、その他地域事業参加者数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		421,000	421,000	421,000	421,000	-					
	実績値		144,483	185,564	254,181	254,102					R6	421,000
達成率		34%	34%	44%	44%	60%	60%	60%	60%			-
指標 (4)	指標名	【活動2】自宅や職場などの身近な場所で運動・スポーツを行う区民の割合										
	定義等	世論調査で「自宅や職場及びその周辺」で運動・スポーツに取り組む区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		-	45	71	73	-					
	実績値		-	69	73	70					R6	73
達成率		0%	0%	153%	95%	103%	100%	96%	96%			-
指標 (5)	指標名	【成果3】あだちスポーツコンシェルジュを通じ継続的な運動・スポーツの実施につながった障がい者の人数（累計）										
	定義等	あだちスポーツコンシェルジュでの相談の結果、運動・スポーツの実施へとつながった障がい者の人数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		40	69	69	136	-					
	実績値		19	29	38	50					R6	136
達成率		48%	14%	42%	21%	55%	28%	37%	37%			-
指標 (6)	指標名	【活動3】区主催の「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」の修了者数（累計）										
	定義等	区主催の「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」を修了した受講者の累計の人数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		149	169	209	209	-					
	実績値		151	183	202	213					R6	209
達成率		101%	72%	108%	88%	97%	97%	102%	102%			-

単位：千円

3 投入コスト	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	749,101	800,858	954,319	1,530,154	
人件費	102,929	106,226	75,612	147,122	
総事業費	852,030	907,084	1,029,931	1,677,276	
前年比(金額)	△109,932	55,054	122,847	647,345	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

【指標1】

達成状況：95%と目標値を下回っているが、少しずつ上昇している。
原因分析：定期的にスポーツをする区民の定着が進んでいると推察される。

【指標2】

達成状況：94%と目標値を下回っているが実績値は上昇している。
原因分析：指標1と同様、定期的にスポーツをする区民の定着が進んでいると推察される。

【指標3】

達成状況：60%と目標値を下回っている。
原因分析：昨年度とほぼ同程度の実績値となり、各イベントの認知度は継続されていると推察される。

【指標4】

達成状況：96%と目標値をやや下回っているが、目標値に近い数字となっている。
原因分析：身近なところで気軽に運動・スポーツに取り組む区民が一定程度定着していると推察される。

【指標5】

達成状況：50人と目標値を達成できなかった。
原因分析：本人の希望に添える活動先の不足や体調変化により体験参加までつながらなかったケースがあったことが原因と考えられる。

【指標6】

達成状況：目標値を若干上回ることができた。
原因分析：パラスポーツの指導知識の習得に興味関心が一定程度あると推察される。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

【指標1・2】

コロナ禍をきっかけとして自宅など身近なところでスポーツを始めた区民について、定着した活動につながるようウォーキングチャレンジなどのチャレンジ企画等の情報発信を継続して行っていく。

【指標3】

各種教室、大会、イベント等は、前年度とほぼ同様に開催している状況ではあるが、「ウォーキング」などの気軽に取り組める事業や、「みるスポーツ」事業などに取り組むことで、運動・スポーツの楽しさを伝え、新たな活動層へのアプローチを進めていく。

【指標4】

運動やスポーツに取り組めていない区民に対して、読書や文化活動との連携によるスポーツを入り口としない「ちょいスポ」の考え方を取り入れた事業や「みるスポーツ」を実施するなど、より身近なアプローチによってすそ野を広げていく。

【指標5】

パラスポーツ協議会において検討していくパラスポーツアクションプランの作成により、パラスポーツの推進体制の構築を図っていく。

【指標6】

障がい者の運動・スポーツの実施を支える人材確保を継続して実施し、障がい者の運動・スポーツ実施率向上につなげていく。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱 立 て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施 策 群 名	4	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する
施 策 名	4.1	人権尊重意識の啓発
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> 人権に関わる団体等と連携しながら人権尊重意識を普及啓発し、すべての人の人権が尊重され、偏見や差別のない社会を実現する。
現 状		<ul style="list-style-type: none"> 人権擁護委員や区内活動団体と講座を年3回共催し、それぞれの専門分野の視点を取り入れながら実施している。 区の人権推進指針「人権の推進をめざして」で重点課題としている16の人権問題のうち、平成30年度足立区政モニターアンケートで「守られていないと感じる人権問題」として、「障がい者」(68.1%)、「子ども」(63.9%)、「女性」(62.5%)、「インターネットによる人権侵害」(61.1%)の順に高い数値を示した課題の他、社会で啓発が強く求められる課題や国が定める各課題の啓発強化週間にあわせ、広報紙やホームページに啓発記事を掲載している。
課 題		<ul style="list-style-type: none"> 共催団体の専門性を活かしながら、興味関心を引く内容を企画するため、関心度の高いテーマ選定や訴求力の高いチラシ作成など、連携した取組みが必要である。 人権問題に関わる情勢を的確に捉え、必要性が高い啓発テーマの選定が求められる。 講座や講演会の参加者に限らず、人権問題に日頃興味関心の低い区民も含め広く啓発するために、広報紙を活用したさらなる啓発が必要である。
方 針		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な普及啓発イベント実施に向け、人権に関わる当事者団体等が発信する情報の収集に努め、積極的に意見交換を行っていく。 インターネット上の人権侵害やLGBTをはじめとした多様な性のあり方に関わる差別や偏見など人権課題を的確に捉え、庁内各課と連携しながら積極的に広報紙を活用し、広く区民の人権尊重への理解を促進していく。
担当課名	総務課(取りまとめ)	
電話番号	03-3880-5497	E-mail soumu@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創 の取組み	人権擁護委員及び人権団体との意見交換やイベント共催など交流の機会を設け、人権に関わる情報の把握に努めるとともに、各主体の専門性を活かした啓発につなげる。	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット) との関連 及び評価	<p>【目標】10人や国の不平等をなくそう【ターゲット】10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。【関連する理由】人権尊重意識を普及啓発することは、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進するとともに差別の解消や機会均等の確保につながる。【評価】講座や講演会を実施することで、区民の人権に関する理解や人権尊重意識の向上に努めた。また、広報紙やSNSを活用し、同和問題や拉致問題、子どもの人権等、様々なテーマを取り上げ、人権尊重意識の普及啓発につなげた。引き続き、社会で関心の高い人権課題を的確に捉え、啓発していく。</p>	
備 考	成果指標1の令和5年度実績値を28.1としていたが世論調査結果の合算値としては28.0が正しいため修正。	

2 施策指標

※達成率＝左欄:当該年度目標値に対する達成率 右欄:R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果1】過去のアンケートで課題となっている4つの人権問題について偏見や差別がないと感じる区民の割合										
	定義等	世論調査で障がい者、子ども、女性、インターネット上での人権侵害について偏見や差別がないと回答した人の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		36		36		36		40		-	
	実績値		30.4		28.5		28		30			R6
達成率		84%	76%	79%	71%	78%	70%	75%	75%			-
指標 (2)	指標名	【活動1-1】人権に関わる団体等と共催した講座回数										
	定義等	区が人権に関わる団体と共催した講座の回数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		3		3		3		4		-	
	実績値		0		3		3		4			R6
達成率		0%	0%	100%	75%	100%	75%	100%	100%			-
指標 (3)	指標名	【活動1-2】偏見や差別解消に向けた取組みを行っている庁内各課と連携した広報紙による啓発回数										
	定義等	区が広報紙に人権啓発記事を掲載した回数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		7		7		9		10		-	
	実績値		6		7		8		8			R6
達成率		86%	60%	100%	70%	89%	80%	80%	80%			-
指標 (4)	指標名											
	定義等											
	単位		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値											
	実績値											R6
達成率												
指標 (5)	指標名											
	定義等											
	単位		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値											
	実績値											R6
達成率												
指標 (6)	指標名											
	定義等											
	単位		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値											
	実績値											R6
達成率												

単位:千円

3 投入コスト

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	3,193	3,693	3,587	5,869	
人件費	20,129	19,083	19,574	20,197	
総事業費	23,322	22,776	23,161	26,066	
前年比(金額)	534	△546	385	2,905	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

成果指標1は、年々実績値が低下していたが、今回調査では3年前の数値とほぼ同程度に回復した。これはSDGsの考え方の浸透や、性の多様性に対する理解などが高まってきたことが要因と考えられる。

活動指標1-1は、例年開催している講座に加え、新たに拉致問題啓発講演会・コンサートについて関連団体と共催により実施したことで目標値を達成することができた。

活動指標1-2については目標値を達成することができなかったが、啓発週間や啓発事業にあわせて各人権課題に関する記事を所管課と連携して掲載し、さまざまな人権課題の理解促進に努めた。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

活動指標1-1については、各講座において共催団体と綿密に協議のうえ、区民に興味関心を持っていただけるよう企画を検討した。その結果定員を超える応募があり、多くの方に改めて人権を考える機会とすることができた。また拉致問題啓発事業では、別事業においてチラシを配布するなど連動した周知を行うことで相乗効果による啓発が行えた。今後も、これまでの実施方法に捉われず、関連機関と連携のうえ、より効果的な事業の実施を進めていきたい。

活動指標1-2は、引き続き、各人権課題の啓発週間に併せて記事を掲載して国や東京都とも連動した広報をするなど工夫していきたい。

成果指標1については、昨年度から2ポイント増加したが「偏見や差別がない」と感じる区民の割合は依然低いままである。今後も足立区人権推進指針に基づき、各所管課と連携した人権関連施策の充実や、関連団体との人権啓発事業の実施、足立区人権施策推進懇談会の意見を事業に反映するなど「人権が尊重されるまち」づくりに向けて取り組んでいく。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱立て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施策群名	4	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する
施策名	4.2	男女共同参画社会の推進
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 性別にかかわらず、個性や能力を発揮し活躍できるよう、環境を整備していくことで、男女共同参画社会の実現を目指す。 ■ DV防止のために広く意識啓発を行うことで、区民一人ひとりの知識と理解を深め、DVの未然防止あるいは早期発見につなげていく。
現 状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和元年度にワーク・ライフ・バランス（以下「WLB」）推進事業の認定制度について見直しを行い、認定企業数が前年度の57社から85社に拡大した。 ■ DVの仕組みや現状を正しく理解するための講座やリーフレットの配布を通じて、啓発や情報提供を行っている。 ■ 区の審議会等における女性委員比率調査の結果、女性比率の低い審議会の所管には聞き取りを行い、他所管の取組みを伝えるなど、女性比率の向上を促している。
課 題		<ul style="list-style-type: none"> ■ WLB推進事業は、制度の内容やWLBの意義についての周知が十分に行きわたっていないため、さらなる啓発に向けた取組みが必要である。 ■ DVには身体的暴力だけではなく、様々な種類の暴力があり、男女を問わずいかなる場合も暴力は絶対に許されないことについて、区民の認識や理解を深めていくことが必要である。 ■ 審議会等における女性比率は着実に上昇しているが、女性比率の向上に向けて改善が可能な審議会等については、所管へのさらなる働きかけが必要である。
方 針		<ul style="list-style-type: none"> ■ 各関係団体や他所管事業に参加している事業者に対する制度内容や取組み事例などの個別説明を通して、WLBの周知を図っていくと同時に、区民の意識が男女共同参画の推進に直結するよう、充実した内容の講座やイベントを企画していく。 ■ DVの被害者にも加害者にもならないための未然防止や、DV被害者支援にあたって早期発見と正しい知識をもって適切に対応できるように、区民、職員を対象に様々な機会をとらえて広く啓発活動を行っていく。 ■ 今後も審議会における女性比率の目標達成に向けて、改善が可能な審議会の担当所管に対するヒアリングや審議会への女性委員の選出の働きかけ、要請などに引き続き取り組んでいき、育児中の女性も安心して審議会に参加できるよう託児環境の整備と周知を図ることで、女性が活躍できる社会を目指していく。
担当課名	多様性社会推進課（取りまとめ）	
電話番号	03-3880-5222	E-mail danjo@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創 の取組み	各施策においてそれぞれが抱えている現状や課題を分析し、既存の庁内連携はもとより、先駆的な事業に取り組んでいる自治体、関係機関への調査を経て、有益な情報を積極的に発信していく。	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット) との関連 及び評価	<p>【目標】 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>【ターゲット】 5.1、5.2、5.5、5.6、10.2、10.3</p> <p>【関連する理由】 行政評価を実施し、事業や施策の効果について評価・分析を行うことで、ジェンダー平等につながる業務改善を行っていく。</p> <p>【評価】 具体的な施策目標を設定することで、事業や施策の実施効果を概ね図っていくことができた。</p>	
備 考		

2 施策指標

※達成率＝左欄：当該年度目標値に対する達成率 右欄：R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果】男女が対等な立場で意思表示や活動をすることができ、また責任も分かちあっている、と感じている区民の割合										
	定義等	「足立区政に関する世論調査」における調査結果										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		40		40		45		50		-	
	実績値		34		30		27		31			R6
達成率		85%	68%	75%	60%	60%	54%	62%	62%			-
指標 (2)	指標名	【活動1-1】足立区各種審議会・委員会等への女性の参画率										
	定義等	女性委員の数／区附属機関等の委員総数										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		36		37		38		40		-	
	実績値		35		35		34		34			R6
達成率		97%	88%	95%	88%	89%	85%	85%	85%			-
指標 (3)	指標名	【活動1-2】足立区WLB認定企業の数										
	定義等	区が認定するWLB推進企業の数										
	単位	件	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		110		120		134		140		-	
	実績値		112		134		129		116			R6
達成率		102%	80%	112%	96%	96%	92%	83%	83%			-
指標 (4)	指標名	【成果2】身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）の認知度										
	定義等	「足立区政に関する世論調査」における調査結果										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		50		60		65		75		-	
	実績値		49		49		64		46			R6
達成率		98%	65%	82%	65%	98%	85%	61%	61%			-
指標 (5)	指標名	【活動2-1】区民向けDV防止講座開催回数										
	定義等	区が実施したDV防止講座の開催回数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		14		14		14		14		-	
	実績値		10		10		9		12			R6
達成率		71%	71%	71%	71%	64%	64%	86%	86%			-
指標 (6)	指標名	【活動2-2】DV防止のためのリーフレット配布部数										
	定義等	区がDV防止のために配布したリーフレット数										
	単位	部	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		6,000		6,000		6,000		6,000		-	
	実績値		5,410		10,911		11,650		11,920			R6
達成率		90%	90%	182%	182%	194%	194%	199%	199%			-

単位：千円

3 投入コスト

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	34,242	34,305	30,712	33,077	
人件費	55,752	53,082	53,480	55,612	
総事業費	89,994	87,387	84,192	88,689	
前年比(金額)	10,438	△2,607	△3,195	4,497	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

【指標1】

達成状況：目標50%に対し実績31%となり、目標を19ポイント下回った。

原因分析：「わからない」「そう思わない」の回答率がともに減少したことで、前年度より4ポイント改善した。国連女性差別撤廃委員会による8年ぶりの日本政府審査が行われたこともあり、関心が高まったと推察される。

【指標2】

達成状況：目標40%に対し実績34%となり、目標を6ポイント下回った。

原因分析：委員の改選がなく前年度と同比率の審議会等が増加(+2)したことが影響し、前年度から改善が見られなかった。

【指標3】

達成状況：目標140社に対し実績116社となり、目標を24社下回った。

原因分析：認定制度の終了に伴い新規募集・更新を停止したこと、本社移転等による認定取り消し2件もあったことから、減少した。

【指標4】

達成状況：目標75%に対し実績46%と、目標を29ポイント下回った。

原因分析：昨年度は大きく改善したが、今年度は従前の水準に戻った。30代以下と60代以上で認知度に35ポイントの差があり、シニア世代への啓発が課題である。

【指標5】

達成状況：目標14回に対し実績12回と、目標を2回下回った。

原因分析：区内中学校からの出前講座依頼が増加(+4校)し、前年度より実績は増加した。しかし、委託講座が減少(△2回)したことで、目標未達成となった。

【指標6】

達成状況：目標の約2倍となる部数を配布することができた。

原因分析：学校や医療機関から追加配布の要望を受けたことで、前年度よりも270部多く配布することができた。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

【指標1】

イベントや講座等によりアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の解消について区民へ啓発することで、更なる改善を図る。

【指標2】

比率が下がった審議会や比率の低い審議会の所管課を中心にヒアリングを行い、改選期には、推薦する委員は会長職に限らない旨を依頼文に明記する等の配慮を担当課へ依頼した。

【指標3】

次年度からは事業を再構築し、認定企業に限定せず区内企業全体を対象としてWLBの推進に向けた支援メニューの提供を行う。

【指標4】

広報、SNSのほか、パネル展示など様々な媒体を通じて、引き続き区民への啓発を行う。

【指標5】

委託講座は5つのテーマに沿って企画しており、年度により実施数が異なる。出前講座の活用を区内学校、団体等に働きかけることで目標達成を目指す。

【指標6】

DV防止出前講座の利用をきっかけに、リーフレットを授業で配布したいという要望が学校よりあった。引き続き、講座やイベントと併せて配布することで啓発に努める。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱 立 て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施 策 群 名	4	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する
施 策 名	4.3	多文化共生社会の実現
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 年々増加する在住外国人が暮らしていくため必要な相談体制を充実させるとともに、日本人区民・外国人区民が地域の発展に向けて共に活躍する多文化共生社会を目指した環境を整備する。
現 状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 区内在住の外国人人口は年々増加しており、令和7年5月現在で4万5千人を超えた。 ■ 令和7年5月現在、外国籍の子どもたち2,299名が区立小・中学校で学んでおり、就学前の児童も教育・保育施設に955人が在園している。 ■ 区立小・中学校での国際理解教育等を通じて、異文化理解や交流を促進している。 ■ 日本語ボランティアの育成等を通じて日本語ボランティア教室を支え、外国人の日本語習得を支援している。
課 題		<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国人人口の増加に伴い、行政手続きや生活相談など、日々の生活に密着した相談が増えているため、相談体制の強化が必要である。 ■ 日本国籍でも外国にルーツを持つ子どもが増えており、文化的背景の異なる子どもたちが互いに認めあう環境の必要性や日本語学習支援を行う必要がある。 ■ 新型コロナウイルス感染症の影響で、国際理解教育や日本語ボランティア教室等を従来どおり実施できないため、新しい生活様式に配慮した対応を考えていく必要がある。
方 針		<ul style="list-style-type: none"> ■ やさしい日本語や多言語翻訳機を活用した相談対応や行政文書・通知書等の多言語対応、東京都及び区内各課からの情報提供の体制を充実し、区内在住外国人の生活を支援する。 ■ 外国にルーツを持ち文化的背景の異なる子どもたちが互いの違いを認め合えるよう、区立小・中学校からの国際理解教育講師派遣依頼に対して十分に対応できる体制を構築し、異文化や言葉の違いを伝える国際理解教育を推進する。 ■ 新しい生活様式を取り入れた日本語ボランティア活動を支援し、在住外国人の日本語学習等の充実を図る。 ■ 外国にルーツを持つ児童・生徒等の就学や進学を支えるために、日本語学習支援を実施する。
担当課名	地域のちから推進部 地域調整課(取りまとめ)	
電話番号	03-3880-5177	E-mail tabunka@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創 の取組み	日本語教室のボランティア講師や国際理解教育の授業を実施するボランティアスタッフとの協働により、多文化共生推進活動を実施している。	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット) との関連 及び評価	<p>【目標】10人や国の不平等をなくそう 17 パートナースhipで目標を達成しよう</p> <p>【ターゲット】10.2 すべての人の能力を強化し、社会・経済・政治への関わりを促進する。 10.3 機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。 17.17 さまざまなパートナーシップの経験などをもとにして、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップをすすめる。</p> <p>【関連する理由】国籍などが異なる人々が互いの文化的違いを認め共に生活する地域社会を作ることは、すべての人々の能力強化や社会参加を促し、機会均等の確保やパートナーシップの推進につながる。</p> <p>【評価】国際理解教育の実施や日本語ボランティア教室の支援、外国ルーツの子どもに対する学習支援の実施など、ボランティアやNPO法人と協力して事業を実施した。</p>	
備 考		

2 施策指標

※達成率＝左欄：当該年度目標値に対する達成率 右欄：R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	【成果1】国際理解教育を実施した小・中学校における異文化への関心度										
	定義等	国際理解教育を実施時、児童・生徒へアンケート調査を行い、「もっと知りたい・学びたい」と回答した者の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	-	55		60		65		-			
	実績値	48	60		53		55				R6	65
達成率	0%	74%	109%	92%	88%	82%	85%	85%			-	
指標 (2)	指標名	【活動1】小・中学校への国際理解教育講師派遣クラス数										
	定義等	区立小・中学校の学級総数のうち、国際理解教育講師を派遣したクラス数										
	単位	クラス	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	20	50		80		110		-			
	実績値	21	69		105		96				R6	110
達成率	105%	19%	138%	63%	131%	95%	87%	87%			-	
指標 (3)	指標名	【成果2】国籍、文化等が異なる人々がともに暮らしやすいまちだと感じる区民の割合										
	定義等	世論調査により、「暮らしやすい・どちらかといえば暮らしやすい」と回答した区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	-	37		37		37		-			
	実績値	43	40		38		42				R6	37
達成率	0%	116%	108%	108%	103%	103%	114%	114%			-	
指標 (4)	指標名	【活動2-1】外国人生活相談対応件数										
	定義等	外国人相談員が外国人の生活相談に対応した件数										
	単位	件	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	2,636	2,673		2,710		2,748		-			
	実績値	2,228	2,324		2,192		2,686				R6	2,748
達成率	85%	81%	87%	85%	81%	80%	98%	98%			-	
指標 (5)	指標名	【活動2-2】区民向けの行政文書・通知書の翻訳依頼に対して外国人相談員が対応できた割合										
	定義等	他部署からの外国人区民向け行政文書・通知書の翻訳依頼に対して外国人相談員が対応できた割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	-	100		100		100		-			
	実績値	100	100		100		100				R6	100
達成率	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%			-	
指標 (6)	指標名	【活動2-3】日本語ボランティア教室開催回数										
	定義等	区内日本語ボランティアグループが実施する日本語教室の開催回数										
	単位	回	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値	-	430		500		580		-			
	実績値	233	440		745		841				R6	580
達成率	0%	40%	102%	76%	149%	128%	145%	145%			-	

単位：千円

3 投入コスト

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	22,383	30,337	31,967	31,962	
人件費	41,581	38,087	38,192	41,659	
総事業費	63,964	68,424	70,159	73,621	
前年比(金額)	11,994	4,460	1,735	3,462	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

【指標1】

達成状況：前年度の実績値を上回ったが、目標値は下回った。

原因分析：アンケートを分析したところ、担当した講師によって関心度に差があった。

【指標2】

達成状況：前年度の実績値を下回り、目標値を下回った。

原因分析：例年申込みのある学校が、他所属で実施する出前授業に切り替えたことで、派遣クラス数の減少につながった。

【指標3】

達成状況：前年度の実績値を上回り、目標値を上回った。

原因分析：区内在住外国人数は毎月過去最高を更新し続けており、身近に外国人と接する機会が増えることで、共生する意識が醸成され、ともに暮らしやすいと感じる区民の割合が増えたと考えられる。

【指標4】

達成状況：目標値は下回ったものの、前年度の実績からは大幅に増加した。

原因分析：前年度実績から大幅に増加した要因としては、マイナ保険証や臨時給付金などの新たな制度に関する問い合わせが増えたことや、母国から家族の呼び寄せ等による子ども関連の相談が増加した。

【指標5】

達成状況：前年度に引き続き、達成率は100%となった。

原因分析：外国人相談員が通訳支援の合間に年間165件（英語64件、中国語51件、韓国語50件）の翻訳作業を行った。翻訳取りまとめ担当が進捗確認を随時行うことで、期間内に全て対応することができた。

【指標6】

達成状況：前年度の実績値を上回り、目標値を上回った。

原因分析：ボランティア養成講座を受講した区民が新たに日本語教室を立ち上げ、令和6年度中に活動を開始したことが実績値の向上につながった。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

【指標1】

アンケート結果を講師へフィードバックし、子どもたちがより関心を持てるよう授業内容のブラッシュアップを図る。

【指標2】

これまで本事業を実施したことがない学校にも利用を促すため、各校が年間カリキュラムを編成する前に全小中学校へ案内し、派遣クラス数の増加につながるよう働きかける。

【指標3】

外国人と日本人が交流するイベントを引き続き実施し、身近に接する機会を提供する。また、日本における生活習慣やマナーを外国人にも分かりやすく伝え、日本人も外国人も住みやすいまちになるよう努めていく。

【指標4】

外国人相談員は経験豊富なため、外国人からの問い合わせに対しては積極的に外国人相談窓口を案内し、外国人の困りごとの解決に向けた支援を継続していく。

【指標5】

外国人へ正確に情報提供できるよう、引き続き他部署からの翻訳依頼に対し、期限内に全て回答できるよう努める。

【指標6】

ボランティアスタッフを養成する講座を継続的に実施し、円滑に教室が運営できるよう支援していく。

足立区 令和7年度施策評価調書(令和6年度事業実施)

1 施策の概要

柱立て	6	【ひと】自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人
施策群名	4	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する
施策名	4.4	ユニバーサルデザインの推進
施策の方向 (目標)		<ul style="list-style-type: none"> ■ ユニバーサルデザインに関する普及啓発活動を通じて、より多くの人々が互いの個性や立場を理解しあうことにより、「思いやりのこころ」を根付かせ、「心づかい」ができる区民があふれるまちをめざす。 ■ だれもが円滑に移動できる施設整備や公共施設などのユニバーサルデザインの整備を進めることで、高齢者や障がい者など多様な人々への配慮がされた施設づくりを進める。
現 状		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「足立区ユニバーサルデザイン推進計画」に基づき、ユニバーサルデザインに配慮した環境づくりを進めており、毎年度、区民、事業者、専門家から、関連する各事業の評価を受けることで、PDCAマネジメントサイクルによる施策の改善に取り組んでいる。 ■ 「自らを含めた地域の人々が、日常生活の中で高齢者・障がい者等の多様な人々に配慮している」と思う区民の割合は34.4%にとどまっている。 ■ 「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」が決定され、東京2020 オリンピック・パラリンピックを契機に、ユニバーサルデザインの認知度向上が求められている。
課 題		<ul style="list-style-type: none"> ■ 区民や区職員、事業者など、区に関わるすべての人にユニバーサルデザインに関する理念を浸透させていく必要がある。 ■ 時間の経過とともに変化する社会や要求されるサービスに対応していくため、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりなど様々な施策が広く展開されていなければならないが、取り組み状況は十分ではない。
方 針		<ul style="list-style-type: none"> ■ ユニバーサルデザインについて、より理解を深めるよう小学校高学年向けのユニバーサルデザイン出張講座、一般区民向けのユニバーサルデザイン講演会、ユニバーサルデザイン製品展などに加え、新たな普及啓発活動を検討し、それらを推進することで、すべての人が個人として尊重され、安心して、健やかに暮らすことができる地域社会の実現を目指す。 ■ 新設の道路や建物への対応に限らず、現状を改善するためのバリアフリー化や、ユニバーサルデザインに配慮した公共施設の整備を行う。
担当課名	都市建設課(取りまとめ)	
電話番号	03-3880-5768	E-mail tosi@city.adachi.tokyo.jp
協働・協創の取り組み	<p>ユニバーサルデザインに配慮した社会の構築のため、区民を対象としたユニバーサルデザイン講演会、製品展および啓発チラシ配布等の各事業を行い、区民とともに心のユニバーサルデザインを推進していく。</p> <p>また、庁内職員と障がい当事者との意見交換等を含めた、ユニバーサルデザイン庁内推進委員会を行い、人材育成を図っていく。</p>	
SDGsが 目指す目標 (ターゲット) との関連 及び評価	<p>【目標】11 住み続けられるまちづくりを (ゴール) 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。</p> <p>【ターゲット】11.7 2030年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。</p> <p>【関連性】 エレベーターの設置、ピクトグラム表示など、ユニバーサルデザインの推進は、「女性、子ども、高齢者や障がい者を含め、全ての人々に安全で容易に利用できる緑地や公共スペースの普遍的アクセスを提供する」ことにつながっている。</p> <p>【進捗状況】ユニバーサルデザインの推進のため、バリアフリー地区別計画策定など各事業を着実に実施している。</p>	
備 考		

2 施策指標

※達成率＝左欄：当該年度目標値に対する達成率 右欄：R6年度目標値に対する達成率

指標 (1)	指標名	「自らを含めた地域の人々が、日常生活の中で高齢者・障がい者等の多様な人々に配慮している」と思う区民の割合										
	定義等	世論調査で「日常生活の中で高齢者・障がい者等に配慮していると思う」と回答した区民の割合										
	単位	%	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		46		48		49		50		-	
	実績値		36.8		34.9		33.2		34.6			R6
達成率		80%	74%	73%	70%	68%	66%	69%	69%			-
指標 (2)	指標名	小学校高学年向けのユニバーサルデザイン出張講座の実施延べ回数										
	定義等	ユニバーサルデザイン出張講座を実施した延べ校数										
	単位	校	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		30		40		50		60		-	
	実績値		33		41		53		56			R6
達成率		110%	55%	103%	68%	106%	88%	93%	93%			-
指標 (3)	指標名	一般区民向け講演会、UD製品展の参加者人数										
	定義等	講演会及びUD製品展示の来場者数										
	単位	人	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		538		542		546		550		-	
	実績値		93		44		46		99			R6
達成率		17%	17%	8%	8%	8%	8%	18%	18%			-
指標 (4)	指標名	ユニバーサルデザイン推進計画「柱3 便利に生活できる『まちづくり』」にある施設整備に関する施策の評価点の平均										
	定義等	推進計画「柱3 便利に生活できる『まちづくり』」のうち、施設整備に関する施策の評価点の平均値（※評価年度）										
	単位	点	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		4.1		4.2		4.2		4.2		-	
	実績値		4.3		4.5		3.8		4			R6
達成率		105%	102%	107%	107%	90%	90%	95%	95%			-
指標 (5)	指標名	平成29年度以降にバリアフリーに対応した整備を行った歩道の延長										
	定義等	バリアフリーに対応した整備を行った歩道の延長										
	単位	m	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		2,350		2,900		3,450		4,000		-	
	実績値		2,430		3,040		3,657		4,823			R6
達成率		103%	61%	105%	76%	106%	91%	121%	121%			-
指標 (6)	指標名	バリアフリーまたはUDに配慮した公共施設の整備数（累計）										
	定義等	バリアフリーまたはUDに配慮した公共施設の整備数（累計）										
	単位	施設	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	目標値
	目標値		30		40		50		60		-	
	実績値		30		39		50		73			R6
達成率		100%	50%	98%	65%	100%	83%	122%	122%			-

単位：千円

3 投入コスト

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	14,159	6,741	13,505	13,296	
人件費	19,254	16,594	26,740	25,827	
総事業費	33,413	23,335	40,245	39,123	
前年比(金額)	7,874	△10,078	16,910	△1,122	

4 担当部における評価（部長評価－1次評価）その1

1) 施策の達成状況とその原因の分析

指標（1）は、令和6年4月から事業者による「合理的配慮の提供」が義務化されたことで、前年より割合は上昇したものの、目標値を下回る34.6%となった。国全体でも令和3年度と比較して割合が低下しており、要因として「心のバリアフリー」などに触れる機会が東京2020大会の当時と比較して減っており、周知・啓発が不十分であったことなどが国において分析されている。

指標（2）は、延べ56校での出張講座となり、目標値を下回る結果となった。要因として、令和6年度にUD出張講座の教材更新を実施したうえで、新教材による出張講座を予定していたが、障がい者当事者等と一緒に教材更新を行うなど計画変更したことで更新時期が遅れ、出張講座の期間が十分に確保できなかったことが考えられる。

指標（3）は、UDを身近に感じることができるよう、日本庭園でのライトアップに合わせた一般区民向けUD講演会、介助犬の講演会に合わせたUD製品展示を行ったが、興味・関心を持つ層が一部にとどまっており、来場者数は99人となった。

しかし、上記の他に大学でのイベントで12日間、UD製品の展示を行っており、来場者数が正確に把握できていないため実績値に含めていないが、連日多くの学生等がブースに訪れ、区の取り組みを若者にも周知啓発できたと考えられる。

指標（4）は、前年と同様に、対象施策を絞り集中的に評価した結果、目標値を下回る4点となった。評価対象施策について、法令や基準等に基づき公共施設を整備するという当然の取り組みがある中で、それ以上の発展的な取り組みがほしい点が評価に表れたと考えられる。

指標（5）は、「バリアフリー地区別計画（花畑周辺地区編）」区域内における、文教大学（バス停等）から花畑大橋通り交差点までの点字ブロック敷設・歩車道の段差解消をはじめとした、区内各地の歩道改修工事を事業所管課において着実に実施し、目標値を上回ることができた。

指標（6）は、令和6年度単年度で23施設のバリアフリー整備が行なわれ、目標値を上回る累計73施設となった。要因として、令和2年のバリアフリー法改正により、既存公立小中学校等施設のバリアフリー化が努力義務化されたことを踏まえ、段差解消などの取り組みの加速化を図っていることなどが考えられる。

上記施策指標のほか、令和6年度は当事者参画のもとバリアフリー地区別計画の6地区目となる六町周辺地区編を策定した。今後もユニバーサルデザイン及びバリアフリーの各施策を着実に推進していく必要がある。

2) 達成状況と原因分析を踏まえた今後の方向性

指標（1）の「日常生活の中で高齢者・障がい者等に配慮している」と思う区民の割合について、全国的にも減少傾向にあり、さらなる普及啓発の取り組みが求められている。

このことを踏まえ、新たな基本計画では、「心のバリアフリー」の啓発による共生社会の実現、学校と連携した出張講座の発展や教材による啓発などを施策に掲げたところである。

今後、出張講座等の機会にアンケート（関心の度合いなど）を行い、その結果を踏まえてあらゆる世代への具体的なアプローチ方法を検討し、ユニバーサルデザインのまちづくりの理念を浸透させていく。

